

【京都国立博物館】(計22件)

<絵画> (21件)

1 名称	百犬図 (ひゃっけんず)	品 質	絹本着色
作者等	伊藤若冲	員 数	1幅
時 代	江戸時代 (18世紀)	寸 法 等	縦143.0cm、横84.4cm
作品概要	18世紀の京都画壇を代表する画家の一人、伊藤若冲(1716~1800)による絹本着色の大幅である。多くの展覧会出品歴、書籍掲載歴があり、すでに若冲の代表的作品の一つとして広く知られている。本作のように一つのモチーフを数多く(本作の場合は59匹)描くこの種の作品は、基本的には「ものづくし」の趣向による吉祥画と見られ、多産・豊穡などを寓意すると考えられる。特に、犬の場合は多産や子孫繁栄の意味合いが強い。画面中央付近に「笑」の字とも見える毛並みをもつ犬が混じる点も、吉祥の意味合いを強めている。竹と犬を描く、いわゆる「一笑図」との関連も考えられよう。いずれにしても、本作が吉祥画としての側面をもつことは間違いない。		
購入金額	99,000,000円		



2 名称	円山応挙関係資料 三井南家伝来(まるやまおうきよかんけいしりょう みついまみなみけでんらい)	品 質	紙本墨画ほか
作者等		員 数	1括(480件)
時 代	江戸~昭和時代(18~20世紀)	寸 法 等	
作品概要	三井南家に伝来した、円山応挙関係の資料一括である。現所蔵者が三井家から直接買い受けたものという。粉本・絵手本・図案集等計480件からなり、応挙および円山派の絵画制作にかかわる貴重な資料群である。大阪市立美術館で開催された応挙展(2003年)をはじめ、すでにいくつかの展覧会に出品歴がある。三井家は応挙の有力なパトロンであり、本家だけでなく三井北家・南家とも応挙と関係があったが、本資料が伝来した経緯については必ずしも明らかではない。資料の内容や書き込み等から判断する限りでは、応挙に私淑し自らも絵筆を執った三井南家九代目当主高德(1874~1937)が収集した資料が大部分を占めると見られ、高德の手になる模本類も多く含まれる。一部の模本には、円山派の画家山本桃谷など原本所蔵者も記されており、資料の収集や模写原本の借覧に際しては、同時代の円山派画家などさまざまなつてを頼ったものと思われる。高德模本には「千夜千枚」との印が捺されるものが多くあり、三井物産監査役等をつとめたかわら模写を日課として画技の習得に励んでいた様子がうかがえる。		
購入金額	30,000,000円		



3 名称	金剛界曼荼羅三摩耶会図像(こんごうかいまんだらさまやえずぞう)	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1巻
時 代	平安時代 天永三年(1112)	寸 法 等	縦30.1cm、横1007.5cm
作品概要	本品は金剛界曼荼羅三昧耶会の三昧耶形を列挙した図像で、非常に薄い楮打紙に諸処に乾性油を引いて図像を転写したものである。教王護国寺(東寺)宝菩提院旧蔵品で、奥書朱書から天永三年に円堂御本を写したものと知られる。十二世紀前半に遡及する紀年銘のある図像は稀少で、伝来が明瞭な点においても、基準作として極めて高い価値を有する。		
購入金額	6,480,000円		



4 名称	十巻抄 観音下・天等下(じゅっかんしょう かのんげ・てんとうげ)	品 質	紙本淡彩・墨書
作者等		員 数	1巻
時 代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	縦30.3cm、全長1226.0cm
作品概要	『十巻抄』は、平等房永厳あるいは勝定房恵仲の撰になるとされる、平安時代末期に編纂された図像集である。原本は伝わらず、鎌倉時代に遡る写本が三種(醍醐寺、逸翁美術館、円通寺)重要文化財に指定され伝存する。本品は、教王護国寺(東寺)観智院に伝来したもので、逸翁美術館本、円通寺本を遡る十三世紀後半の作である。もとは十巻が完存し、図像も彩色が施された絵師の手になると考えられるもので、『十巻抄』の善本として知られていた。戦後に東寺から流出し、奈良国立博物館に仏頂等一卷・経法一卷、帝塚山大学博物館、ハーバード大学美術館等に分蔵が確認されている。史料価値は上述の通りであるが、彩色図像として美術品の価値も極めて高い。		
購入金額	12,960,000円		



5 名称	宗宝僧正画稿一紙・宗泉僧正画稿三紙(そうほうそうじょうがこういっし・そうごうそうじょうがこうさんし)	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1幀
時 代	室町時代 15世紀	寸 法 等	①宗宝像縦22.9cm、横15.9cm、②宗泉像(一)縦12.2cm、横11.5cm、③宗泉像(二)縦23.3cm、横9.3cm、④宗泉像(三)縦26.9cm、横10.0cm、⑤宗宝像附属題記縦15.4cm、横3.5cm、⑥宗泉像(一)附属題記7.8cm、横1.9cm、⑥宗泉像(二)附属題記8.8cm、横3.0cm、額総寸縦61.0cm、横46.0cm
作品概要	本品は、教王護国寺(東寺)観智院に伝来し、『東寺』(朝日新聞社、1958年)で初めて紹介されたもので、観智院蔵真言八祖像の箱から発見されたとされる。観智院四世宗宝・同五世宗泉の肖像紙形で、現在は額装されている。その修正を重ねた様相から、宗宝・宗泉の肖像と推測される。本図と一緒に収められていた観智院蔵真言八祖像の制作年代は、永享六年(一四三四)と判明しており、本図の制作年の大凡を傍証していると言える。宗宝・宗泉の肖像としては、もっとも由緒の正しい作で、東寺観智院の歴史を考える上でも他に類のない貴重な遺品である。		
購入金額	4,320,000円		



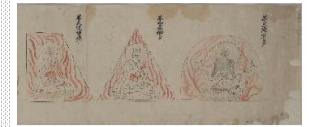
6 名称	金剛童子図像(こんごうどうしずぞう)	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1巻
時 代	平安~鎌倉時代 12~13世紀	寸 法 等	縦20.9cm、全長308.1cm
作品概要	本品は、金剛童子という天台宗門派・三井寺系統で尊信された尊格をまとめたものであるが、教王護国寺(東寺)観智院旧蔵になる。楮打紙に罫線を引いた料紙に図像と所説を交互に記載するが、最初から罫線を引いた料紙を使用しており、図像は罫線の上に描かれる。また、図像部分には乾性油を引いた痕跡が残る。料紙の状況や図像の線描の質から、絵師に絵を描かせたのではなく、僧侶が図像と所説を交互に順次写していったものと思われる。蓋裏墨書に田山方南(1903~1980)が「平安時代所描」と記すが、制作年代は十二~十三世紀と見られる。当時における真言宗と天台宗との宗派を超えた図像蒐集活動を示す例として貴重な作品である。		
購入金額	5,400,000円		



7 名称	烏枢瑟摩明王図像(うすさまみょうおうずぞう)	品 質	紙本白描・墨書
作者等		員 数	1巻
時 代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	縦26.6cm、全長490.4cm
作品概要	本品は、教王護国寺(東寺)観智院旧蔵で、烏枢瑟摩明王の諸図像十五図をまとめたものであるが、宇治経蔵本などの珍奇な図像が収載されていることから大正新脩大蔵經図像部第六巻に「烏枢瑟摩明王図像(一卷) 京都観智院蔵本」として収録されており、戦前から著名であった作品である。蓋裏墨書に田山方南が「平安時代所描」と記すが、表紙と本紙の継目裏に定円(花押)の署判があることから、鎌倉時代、十三世紀前半の作と見られる。定円は、明恵の弟子ともされており、観智院には他にも定円伝領本が複数存在しており、これらは勤修寺・実任の収集図像がもとになっているとされる。東寺観智院第十三世・賢賀の修理奥書がある。伝来の判明する史料価値の高い図像で、大正新脩大蔵經図像部掲載本の原本の情報確認できるのは研究上重要な意義を有する。		
購入金額	8,640,000円		



8 名称	大日経十二火神図像 (だいにちきょうじゅうにかしんずう)	品 質	紙本淡彩
作者等	賢宝	員 数	1巻
時 代	南北朝時代 14世紀	寸 法 等	縦26.7cm、全長181.9cm
作品概要	本品は、教王護国寺(東寺)観智院旧蔵で、観智院第二世・賢宝(1333~98)の自筆になる貴重な図像である。賢宝は、泉宝、頼宝とともに東寺三宝といわれた当代随一の学僧であり、本品に筆者注記はないが、図像注記の文字から間違いのないものと推定されている。『大日経』護摩品に説く護摩の真意義にかなう真実の十二火神を描いたもので、巻首第一智火・第二行満の二火神を失うほか、第九意生・第十一(経文不説)の二火神を失っている。他に類品が残されていない珍しい図像であり、大正新脩大蔵経図像部第七巻に「大日経十二火神像(一卷) 京都東寺観智院蔵本」として収録されており、戦前から著名であった作品である。大正新脩大蔵経図像部掲載本の原本の情報が確認できるのは研究上重要な意義を有する。		
購入金額	5,400,000円		



9 名称	理趣経十八会曼荼羅図(りしゆきょうじゅうはちねまんだら)	品 質	紙本白描、朱書
作者等		員 数	1巻
時 代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	縦27.6cm、全長639.8cm
作品概要	本品は、教王護国寺(東寺)宝菩提院旧蔵で、宿紙に近い紙質に描かれていることから鎌倉時代初頭の作と考えられる。巻首に継紙(横16.5)があり、「惣録云 理趣経十八会曼荼羅十八禎 仁寂(下略)」三行の墨書は観智院第二世・賢宝(1333~98)自筆とされる。巻首継紙墨書の述べるとおり、理趣経十八会曼荼羅を集成したもので、絵仏師の手になる優秀な作行きを示しており、鎌倉時代前期に遡る伝来の明確な図像として貴重なものである。		
購入金額	8,640,000円		



10 名称	不動曼荼羅図像断簡(ふどうまんだらざうだんかん)	品 質	各紙本白描
作者等		員 数	2幀
時 代	平安時代 12世紀	寸 法 等	①二重院構成 本紙縦50.5cm、横30.2cm ②一院構成 本紙縦53.6cm、横30.0cm
作品概要	本品は、教王護国寺(東寺)観智院旧蔵で、②本紙下部旧軸付紙との境界に「定円本(花押)」墨書、②本紙脇に短冊形(旧軸付紙切取、縦10.5、横2.0)貼込があり、そこに墨書「権少僧都経円(花押)」とある。定円は、明恵の弟子ともされ、経円は修理大夫高階経雅の子で遍智院成賢僧正の附法であり、勸修寺・実任(1097~1169)の収集図像を歴代伝領した様をよく示している。大正新脩大蔵経図像部第六巻に「不動曼荼羅(別項金剛童子図像同巻) 京都観智院蔵本」として所載されるもので、三図のうち中間図を欠失している。もともとは、大正新脩大蔵経図像部第六巻に同じく収載される「金剛童子図像一卷 長寛元年写 京都観智院蔵本」の後に継がれていたものである。金剛童子図像に長寛元年(1163)の年記があり、本図もほぼ同時期の制作になると考えられる。これらは、戦後に東寺から流出し、古美術商の手によって分割されたものが再蒐集されたもので、原態を失っているのは残念であるが、平安時代の基準作として重要な位置を占める作品である。		
購入金額	7,560,000円		



11 名称	宝楼閣曼荼羅図像断簡(ほうろうかくまんだらざうだんかん)	品 質	各紙本白描
作者等		員 数	2幀・1幅
時 代	平安時代 12世紀	寸 法 等	①一幀・巻首部 ②一幀 ③一幅・巻末部 ①縦29.5cm、横52.2cm、②縦29.9cm、横51.9cm、③縦28.6cm、横21.0cm
作品概要	本品は、教王護国寺(東寺)観智院旧蔵で、③巻末旧軸付紙との境界に「定円本(花押)/伝領之/権少僧都経円之」とある。定円は、明恵の弟子ともされ、経円は修理大夫高階経雅の子で遍智院成賢僧正の附法であり、勸修寺・実任の収集図像を歴代伝領した様をよく示している。大正新脩大蔵経図像部第五巻に「宝楼閣曼荼羅(一卷) 京都観智院蔵本」として所載されるもので、本来四紙からなり、①と②の間の一紙分を欠失している。これらは、戦後に東寺から流出し、古美術商の手によって分割されたものを再蒐集されたものである。宝楼閣曼荼羅の異伝を収集した図像としても、また平安時代に遡る由緒の明確な優作としても貴重な作品である。		
購入金額	9,720,000円		



12 名称	軍荼利明王図像(ぐんだりみょうおうずどう)	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1幅
時 代	鎌倉時代 承久三年(1221)	寸 法 等	縦39.7cm、横28.0cm
作品概要	本品は、旧東寺伝来の図像で、もとは五大明王を一巻としていたが、戦後分割され、諸家に分蔵されるに至ったと見られる。巻末と思われる大威徳明王図像(個人蔵)に奥書「承久三年辛未八月」とあり、制作年代が判明する。ヴィナーヤカを脇侍とすることからもわかるように、非常に珍しい図像であり、基準作としても貴重な図像である。		
購入金額	3,240,000円		



13 名称	降三世明王図像(ごうさんぜみょうおうずどう)	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1幀
時 代	鎌倉時代 承久三年(1221)	寸 法 等	縦35.8cm、横27.3cm
作品概要	本品は、旧東寺伝来の図像で、もとは五大明王を一巻としていたが、戦後分割され、諸家に分蔵されるに至ったと見られる。巻末と思われる大威徳明王図像(個人蔵)に奥書「承久三年辛未八月」があり、制作年代が判明する。足下の大自在天及び同妃の下に荷葉を敷くことからわかるように、非常に珍しい図像であり、基準作としても貴重な図像である。		
購入金額	3,240,000円		



14 名称	十二神将真達羅大将図像 定智原本(じゅうにしんしょうしんだらたいしょうずどう じょうちげんぼん)	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1幅
時 代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	縦43.8cm、横32.2cm
作品概要	本品は、薬師如来の眷属である十二神将のうちの真達羅大将を描いたものである。かつて十二神将揃った形で高山寺に伝来し、その後、益田純翁(1848~1938)の所蔵となり、俗に「益田家本」と称され著名なものであったが、現在は諸家に分蔵されている。大村西崖『仏教図像集古』「五本十二神将」巻頭に収載され、かつての姿を知ることができる。もともとはメクリの状態で高山寺に伝来したと見られ、純翁が軸装に改めたものと思われる。安底羅大将像(メトロポリタン美術館蔵)裏書に「長寛三歳五月十八日 定智本」とあり、また「唐本云々 以帥都維那[定智/長覚房]、令摸畢云々已上 月上院本 玄証(花押)」とあったとされ、その由緒が知られる。すなわち、長寛二年(一一六四)に絵仏師・定智が描いた図を図像蒐集で知られる玄証(1146~1222)が写し、高野山月上院に所蔵された後、高山寺に移されたものである。色注があり、彩色本を写したものであったことがわかる。高山寺伝来の玄証収集図像は「玄証本」と称されているが、その中にあるのも由緒がはっきりしている点で屈指の貴重な作品である。		
購入金額	7,560,000円		



15 名称	日天子図像(にってんしずどう)	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1幅
時 代	平安~鎌倉時代 12世紀	寸 法 等	縦54.1cm、横29.9cm
作品概要	本品は、画面中央上部裏に「高山寺」朱文長方印があることからわかるように、高山寺に伝来したもので、朝日新聞社創立者の村山龍平(香雪、1850~1933)の旧蔵になるものである。村山香雪は、高山寺図像の流出に際し、まとまった収集をおこなっており、香雪美術館・村山家に現在もその多くが収蔵されているが、一部は戦後に整理されて村山家から流出している。本品もその一点で、表装・箱・ラベルは村山香雪の調製になる。ラベルには「玄証筆 日天子像」とあるが、玄証本か本図の情報からは確定できない。しかし、制作年代は平安~鎌倉時代であり、その可能性が高い。日天子という非常に珍しい図像である点も貴重である。		
購入金額	3,240,000円		



16 名称	地藏菩薩画像 定智原本（じぞうぼさつずぞう じょうちげんぼん）	品質	紙本白描
作者等		員数	1幅
時代	鎌倉時代 13世紀	寸法等	縦52.5cm、横28.6cm
作品概要	宣字坐に半跏する地藏菩薩像を描く。画面上部裏に「高山寺」朱文長方印があり、高山寺伝来と確認される。画面右上隅に裏書墨書（切断し表裏反転のうえ表装）があり、「百号 地藏菩薩像 定智筆写」とあることから、十二世紀に活躍が知られる絵師・定智筆の原本を写したものと判明し、定智の画蹟をうかがう貴重な遺品であると言える。「玄証本」と称される玄証（1146～1222）蒐集画像の一環であった可能性が高く、制作年代も十三世紀の初頭に置かれるものである。本品は、鐘淵紡績株式会社社長を務めた武藤山治（1867～1934）旧蔵になることが同筆蓋表墨書「伝定智筆 地藏尊之像」からも判明するが、武藤山治の取蔵選集図録である『聴松清鑿』にも「第五十七 地藏菩薩図 定智筆 高山寺伝来」として掲出され、鍾愛の品だったことが知られる。優秀な線描から美術品としても高い価値を有する。		
購入金額	6,480,000円		



17 名称	不動明王画像（ふどうみょうおうずぞう）	品質	紙本白描
作者等		員数	1幅
時代	鎌倉時代 13世紀	寸法等	縦98.8cm、横45.3cm
作品概要	箱側ラベルに「高山寺 白描不動」とあるが、高山寺印は本図には確認されない。しかし、右上隅端裏書「百二号」とあり、この附番は高山寺旧蔵画像に見られることから、高山寺伝来品であることは間違いないと考えられる。下辺中央部に端裏書「不動尊」とある。制作年代は十三世紀前半に置かれるものである。		
購入金額	5,400,000円		



18 名称	深沙大将画像（じんじゃだいじょうずぞう）	品質	紙本白描
作者等		員数	1幅
時代	鎌倉時代 13世紀	寸法等	縦100.9cm、横50.7cm
作品概要	本品は、玄奘三蔵のインド行において流砂に出現して守護したという深沙大将を描く。画面裏に「高山寺」朱文長方印があることからわかるように高山寺に伝来したもので、端裏書墨書「深沙大王 七十五号 月上院」とあることから、玄証蒐集画像であったと考えられる。制作年代も鎌倉時代初期と考えられる。本図は、朝日新聞社創立者の村山龍平（香雪）の旧蔵になるものであり、表装・箱・ラベルは村山香雪の調製になる。由緒来歴の明確な玄証本の基準作として貴重な作品である。		
購入金額	4,320,000円		



19 名称	十二天羅刹天画像 珍海様（じゅうにてんらさつてんずぞう ちんかいよう）	品質	紙本白描
作者等		員数	1幅
時代	鎌倉時代 13世紀	寸法等	縦90.8cm、横49.1cm
作品概要	本図は、平安時代後期の画僧・珍海（1092～1151）の創案になると考えられる十二天図像のうちの羅刹天を写したものである。この十二天の図像形式が珍海に手になることは、重要文化財に指定されている旧反町家本（大阪市立博物館・東京国立博物館に分蔵）の画中注記から判明する。珍海は南都の画僧であるが、真言宗小野流と所縁が深く、小野流の灌頂儀礼の整備に際し、屏風の形式に適合するようこのような立像式十二天像を創案したと見られる。本品に色注が施されていることからわかるように、珍海の十二天は彩色本であった。本品は、裏面に「高山寺」朱文長方印が捺されていることからわかるように、高山寺に伝来し、もとは十二天完備していたと見られる。制作年代も旧反町家本とほとんど隔たらない十三世紀初頭の作と見られ、玄証本と証される玄証蒐集画像の一部をなしていたと推測される。本十二天図像は、当館に伊舎那天像（A甲786）が既に所蔵されている他、奈良国立博物館に帝釈天像が所蔵されている。もと村山香雪の旧蔵品で、表装・箱・ラベルは村山香雪の調製になる。旧反町家本に匹敵する珍海様十二天像の善本として高い価値を有する作品である。		
購入金額	7,560,000円		



20 名称	文殊菩薩画像（もんじゅぼさつずぞう）	品質	紙本白描
作者等		員数	1幅
時代	鎌倉時代 13世紀	寸法等	縦61.0cm、横53.0cm
作品概要	二重円光に蓮華座上に坐し、右手に三鉈剣、左手に梵唄を載せた開敷蓮華を執る文殊菩薩を描く。色注が施されていることから、彩色本を底本としていたと見られる。左上隅端裏書「文殊菩薩」とあり、十三世紀初頭の作と見られる。作品自体には他の情報はないが、本図は高山寺に伝来した玄証本と証される玄証蒐集画像の一部をなしていたと推測される。なぜなら、本図は村山香雪の旧蔵になり、表装・箱・ラベルは村山香雪の調製なることが明らかだからである。香雪は高山寺図像をまとめて入手しており、本図もその一部と見るべきであり、箱側ラベル「玄証 文殊図（楢円ラベル）「番外二十三」」もこれを傍証している。蓋表墨書「高山寺白描文殊菩薩」及び蓋裏墨書「昭和廿五年十月八日 吉原生」は、村山家からの流出後に記されたもので、香雪蒐集品の変遷を知る上で参考になる情報である。		
購入金額	7,560,000円		



21 名称	重要文化財 法華経巻第五（冊子）（ほけきょうかんだいご（さっし））	品質	彩牋墨書
作者等	不明	員数	1帖
時代	平安時代 11世紀	寸法等	18.1×11.2cm
作品概要	『妙法蓮華経』巻第五「提婆達多品第十二」「勸持品第十三」「安樂行品第十四」「從地涌出品第十五」を華麗な料紙に書写した冊子。早くも昭和6年には旧国宝に指定された名品である。全40丁。もとは粘葉装であったが、現状は綴葉装とする。一部脱落・錯簡がある。料紙は北宋舶来と考えられる唐紙を用いており、その多くは縹・黄・白などの具引き地に、雲母摺りによって唐草文や花菱文などが表されている。平安貴族の法華経信仰と高い美意識が結合した装飾経ということができよう。特徴的な点は、宮廷風俗や女性を描く下絵が6図含まれていることである。いわゆる大和絵の技法で描かれた各図の主題は明らかでなく、歌絵か物語絵かなど議論が分かれている。なお、同時代の類品として『観普賢経冊子』（重文、五島美術館）が知られる。		
購入金額	100,000,000円		



<金工> (1件)

22 名称	重要文化財 短刀 銘 長谷部国重（たんとう めい はせべくにしげ）	品質	鉄、鍛造
作者等	長谷部国重	員数	1口
時代	南北朝時代 14世紀	寸法等	全長47.0cm 刃長37.3cm
作品概要	南北朝時代の京都で繁栄した刀工集団・長谷部派の名工、国重の手による短刀。国重をはじめとする長谷部派は大和鍛冶をその祖に持ち、鎌倉時代後期に鎌倉に移住したのち、相州鍛冶の祖である新藤五国光の影響を受けたと考えられる。鎌倉幕府の崩壊後は京都に集住して信国派と並ぶ南北朝時代の山城鍛冶を代表する流派となった。国重は京都に移住後の同流派の実質的な初代で、弟の国信と共に多くの名品を遺している。国重は弟の国信に比して在銘の現存作例が短刀に偏重しているのが特徴で、しかもその数は極めて少ない。国重の代表的な作例としては福岡市博物館所蔵の国宝「刀 金象嵌銘長谷部国重本阿（花押）／黒田筑前守（名物匠切長谷部）」がつとに名高いが、これすらも後年の鑑定家（本阿弥光徳）による極めの金象嵌銘であり、国重自身の銘ではない。		
購入金額	35,000,000円		

